

日本景観生態学会 2024年仙台大会 エクスカーション

○開催概要

日時:2024年6月2日(日) 9:00~17:00(雨天決行)

集合:地下鉄東西線「荒井駅」

解散:仙台空港(16時頃)およびJR仙台駅(17時頃)

内容:2011年3月の東北地方太平洋沖地震・津波とその後の大規模復興・防災事業の影響を受けた仙台湾岸(仙台市と近隣域)を訪問して、砂浜海岸エコトーンや防災施設、復興まちづくりの実態、経緯、課題を共有します。

訪問予定地:蒲生干潟、汀沈釜湿地・残存海岸林、貞山運河、仙台ふるさとの杜
新浜・荒浜地区の砂浜・海岸林、緑の防潮堤

○主な訪問地

蒲生干潟

広大な砂丘や塩湿地が広がり、多様な動植物が再生しつつある。絶滅危惧種のコクガンの越冬やシロチドリの繁殖もみられる。



仙台ふるさとの杜

市民・行政・企業などが連携して、海岸防災林を育成。第1回グリーンインフラ大賞受賞。環境省の自然共生サイトにも認定されている。



貞山運河

かつては米や木材などを積んだ船が行き来していた。現在は観光資源としての利活用が進められている。



汀沈釜湿地

津波と地盤の沈降により湿地が拡大し、タコノアシなどの絶滅危惧種も生育している。震災以降、湿地の乾燥化が進んでいる。



新浜・荒浜地区

防潮堤のセットバックや覆砂、盛土の回避など、生態系保全に対する様々な復興事業が実施されている。



※濃い緑の多くは自立的に再生したマツ

緑の防潮堤

防潮堤と盛土・樹林などを一体的に整備した新たな海岸防災施設。防潮堤の陸側斜面にクロマツや広葉樹が植栽されている。

